

平成19年度 事務事業評価表	担当	上下水道部 水道課	内線等	2212
事務事業名	県営水道受水事業		事業コード	5 . 義務的事業
根拠法令等	愛知県営水道用水供給事業給水規定		Dその他	

総合計画での位置付け

基本目標	2 . 快適でやすらぎのあるまちづくり	施策名	水資源
------	---------------------	-----	-----

事務事業の内容

対象（受益者）	水道水を
手 段	愛知県企業庁から購入することにより
想定する成果	安定的な水道水の供給の確保を図る。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
年間受水量	10,765,401m ³	10,821,949m ³	11,100,000m ³
受水費	815,816,674円	817,111,460円	824,655,000円
日最大受水量	34,742m ³ / 日	34,888m ³ / 日	35,000m ³ / 日

成果指標

成果指標名	承認基本給水量	受水量率
成果指標の説明	年度別承認基本給水量	年間最大受水量 / 承認基本給水量 × 100

事業の進捗状況 (水道事業 会計) (単位：千円)

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		37,300m ³ / 日				37,300m ³ / 日				37,300m ³ / 日			
成果指標		93.1%				93.5%				93.8%			
事業費	事業費	815,850				817,209				824,762			
	人件費	3,892				3,905				3,138			
	(人数)	正規	0.5	非常勤		正規	0.5	非常勤		正規	0.4	非常勤	
	合計	819,742				821,114				827,900			
財源内訳	国												
	県												
	市債												
	その他												
	一般財源	819,742				821,114				827,900			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	3	3	3	3	冷夏、酷暑の年があり、需要量の変化があり、いかに受水量を抑えるかによる。
経済効率性	3	3	3	3	承認基本給水量の低減をはかり、受水費の減額をする。
事務効率性	3	2	3	2	毎年7月末から8月中旬に日最大受水量が計測されている、これにあわせ流入コントロール操作を実施する。
必要性	-	3	-	3	義務的事业
小計	9	11	9	11	
施策への貢献度	3	-	3	-	県水100%依存の水道事業であり、安定給水に貢献している。
合計	12	11	12	11	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	A	A	B	
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

<p>前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」</p> <p>承認基本給水量を37,300m³に減額したことによる、水量超過の監視体制の充実のため、平成17年度清田低区配水場にカウンター盤を設置し、流入コントロール操作するため、蒲郡浄水場に2時間前に連絡(豊川用水の送水量減量)をとる必要があり、体制づくりが必要。</p> <p>上記改善点の実施状況</p> <p>平成19年4月より蒲郡浄水場が廃止、豊川浄水場よりの送水となり、減量の連絡をする必要がなくなった、また蒲郡調整池の設置計画も進んでおり築造後、流入コントロール操作が的確に行えるようになる。</p>

今後さらに改善すべき点

<p>県との数値誤差を生じさせないように、カウンター盤の精度をあげる必要がある。</p>
--

平成21年度予算に反映する項目

<p>承認基本給水量の減量にかかわる運用基準が、過去5年間の最大値から3年間に短縮され、蒲郡市としては減量することができる。</p>
--

今後の方向性

<p>現状維持</p>

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事业は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。

